



都市機能の整った快適なまち推進プラン

事業名 狭あい道路整備事業				
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-4 3		4 都市機能の整った快適なまち		
所管名	1560 都市整備課	<input type="checkbox"/> リーディング事業	<input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 千円
事業概要	目的	狭あい道路を4m以上に拡幅し、防災活動や生活環境を向上させる		
	対象	狭あい道路に接する土地所有者		
	手段	後退部分の寄付を前提に、植木や塀等の移転・撤去の費用として、50万円を限度に補助する。また、分筆・所有権移転等の登記手続費用を市が負担するとともに、市道として道路整備をする。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○市道との境界確定に係る測量委託を行う。 ○寄付のあった道路後退部分に係る物件の補償を行う。	→→→→→→→→	→→→→→→→→	→→→→→→→→
目標【2022(令和4)年度】			現状【2019(令和元)年度末】	
狭あい道路整備の申請件数が224件になっている			190件	

＜2021年度 進捗状況＞	事業費(2021(令和3)年度実績額)	4,956,825 円
---------------	---------------------	-------------

実施結果	申請件数:12件		
	反省点・問題点	工夫している点	小規模開発事業事前調査書がまちづくり景観課へ提出される際に、狭あい道路整備事業の説明を行っている。また、境界確定の立会の際にも該当道路においては事業説明を行っている。ずし広報において定期的に周知を行っている。
反省点・問題点	土地の寄付が前提となるため、建築等による土地利用が伴わないと寄附を受けることが難しい。 狭あい道路の両側が拡幅整備され、4mの道路にならないと目標が達成できない。		

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
申請件数が、222件になった。	ア ①予定どおりに進捗	住宅の新築及び改築件数が社会情勢によって変化するため、景気や国の政策に左右されやすい。	(a)順調である

＜審議会・懇話会等の意見＞

進捗は順調であると思われるが、個別事情が否定的な内容で記述されているため、順調でないように捉えられてしまう。 狭あいの整備率としてはあまり高くない数値にあるので、メリット等を含め様々な観点から周知をしていってもらいたい。 今後の改訂の際には、狭あいが整備されていることが目に見えてわかるような目標としていってもらいたい。 目標に対する評価としては妥当であると考えます。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(a) 順調である

都市機能の整った快適なまち推進プラン

事業名 崖地対策事業				
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-4 4		4 都市機能の整った快適なまち		
所管名	1560 都市整備課	<input type="checkbox"/> リーディング事業 <input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】	千円
事業概要	目的	道路沿いのがけ崩れ対策		
	対象	道路を通行する車両や歩行者		
	手段	民有地に関して適正な維持管理を行うよう促していく。また、防災性の高いまちづくりを推進するために、ホームページや広報誌等で啓発を図っていく。なお、危険箇所については、自治会町内会や住民自治協議会と連携して箇所の把握や周知を図っていく。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	防災工事助成の実施件数が15件となっている。	防災工事助成の実施件数が19件となっている。	防災工事助成の実施件数が23件となっている。	防災工事助成の実施件数が27件となっている。
目標【2022(令和4)年度】			現状【2019(令和元)年度末】	
防災工事費助成件数 27件			15件	

＜2021年度 進捗状況＞ 事業費(2021(令和3)年度実績額) 11,758,475 円

実施結果	2021年度は19件実施した。 また、住民自治協議会と連携し、危険箇所の把握及び周知をした。		
反省点・問題点	工夫している点	職員による定期点検で要対策箇所と判断した箇所や、住民自治協議会と連携し、危険箇所と判断した箇所については、所有者に通知をし、防災助成の紹介を行っている。	

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
実施済み箇所42件	ア ①予定どおりに進捗		(a)順調である

＜審議会・懇話会等の意見＞

崖地対策については、様々な観点から取り組んでいると思われるので、実施結果としてこれだけの取り組みをしたということをもっと記載しても良いと思われる。 評価としては妥当であると考えている。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(a) 順調である



都市機能の整った快適なまち推進プラン

事業名		下水道施設再整備事業			
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち			
4-4 5		4 都市機能の整った快適なまち			
所管名	1570	下水道課	<input type="checkbox"/> リーディング事業	<input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】
					千円
事業概要	目的	老朽化が進行する下水道施設を再整備することにより、持続的な事業運営を図る			
	対象	下水道を利用する市民			
	手段	再整備に向けた調査・研究等を進める			
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	
	浄水管理センター再整備に関する基本事項の検討項目の整理	再整備に関する基本事項の一部検討及び取りまとめ	再整備に関する基本事項の検討及び取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内調整 ・(必要に応じて)国・県との協議 ・(必要に応じて)関連事項の整理 	
目標【2022(令和4)年度】			現状【2019(令和元)年度末】		
浄水管理センター再整備の方針が確定している。			基本事項を検討中		

＜2021年度 進捗状況＞ 事業費(2021(令和3)年度実績額) 22,000,000 円

実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・公募型プロポーザル方式により、技術力の高い業務受託コンサルタントを選定し、様々な議論をもって津波対策も含めた概略の整備手法を整理し、令和3年度目標としていた浄水管理センターの再整備基本構想を策定した。(履行期間: 令和3年6月14日～令和4年3月31日) ・当初想定していなかった更なる取組として、令和3年8月に葉山町からの呼びかけに応じ、汚水処理の広域化・共同化の可能性検討に向けた協議を開始し、令和4～5年度で連携して検討調査を実施することとなった。 	
反省点・問題点	工夫している点	コンサルタント委託業務指導の他、再整備の検討に資する最新技術等について、日本下水道事業団の調査検討協力を得るとともに、市独自の調査・研究を関係職員一丸となって取り組んだ。

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
当初目標どおり、令和2年度、3年度で浄水管理センターの再整備基本構想を策定した。さらに令和4年度からは、葉山町との汚水処理の広域化・共同化の可能性検討について調査検討を進めて行く。	ア ①予定どおりに進捗		(a) 順調である

＜審議会・懇話会等の意見＞

葉山町と広域連携をして、公共の福祉を最大限はかるといことは非常に評価できる。 非常に長期にわたる事業であるので、将来を見通して今後も円滑により良い形で進めていってほしい。 評価としては妥当であると思われる。	審議会等が妥当と考える評価区分 (a) 順調である
---	----------------------------------



都市機能の整った快適なまち推進プラン

事業名		歩行者と自転車を優先するまち推進事業				
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち				
4-4 6		4 都市機能の整った快適なまち				
所管名	1510	環境都市課	<input type="checkbox"/> リーディング事業	<input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 千円	
事業概要	目的	安全で快適な歩行空間を創出する。適切な自転車利用ができる環境づくり。公共交通アクセス手段の向上。自動車に頼りすぎない仕組みづくりの実現。				
	対象	歩行者、自転車、公共交通、自動車など市内の道路を利用する者及び市民、警察、行政、商店会、交通事業者などの関係機関等				
	手段	歩行空間における支障物の解消、歩行者優先の周知・啓発活動、楽しんで歩ける環境づくり。自転車利用環境の向上、ルール・マナーの効果的な周知と啓発、自転車を楽しむ風土づくり。公共交通の利用促進。車の利用方法の見直し。地域主体のコミュニティバス等の導入に係る研究及び運行に向けた支援				
年度別計画	2019(令和元)年度		2020(令和2)年度		2021(令和3)年度	
	○JR逗子駅前周辺地区重点プログラムの実施		→→→→→		→→→→→	
	○自転車利用のルール、マナーの徹底した周知		→→→→→		→→→→→	
	○歩行者と自転車のまちづくりニュース全戸配布		→→→→→		→→→→→	
	○カーフリーデーの実施(共催)		→→→→→		→→→→→	
○地域主体のコミュニティバス等の運行に向けた支援		→→→→→		→→→→→		
目標【2022(令和4)年度】				現状【2019(令和元)年度末】		
限られた道路空間における、歩行者・自転車・自動車の共存の方策が実施されている。				アクションプランを策定した		

＜2021年度 進捗状況＞	事業費(2021(令和3)年度実績額)	0 円
---------------	---------------------	-----

実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントや環境都市課窓口で、周知ステッカーを配布した。(8枚) ・原付二種で40歳代の事故が多いことから、市営駐輪場内に注意喚起ポスターを掲示した。 ・歩行者と自転車のまちを考える会の主催で、「ツール・ド・逗子2021」(5月30日)「逗子カーフリーデー2021」(9月23日)と「トモイク自転車教室」(3月19日)を実施した。 ・デマンド型乗合タクシーの実証実験を、アーデンヒル自治会及び関係機関と行った。(公共交通拡充支援事業で実施) ・シェアサイクル実証実験(経済観光課にて令和元年度より開始)の専用駐輪場(ステーション)を2箇所追加設置した(合計31箇所)。 ・池田通り及び逗子市道55号への自転車誘導マークの設置、銀座通りへの自転車逆走防止注意表示設置について、関係者と協議を行った。 ・交通渋滞の解消に向け、文献調査やヒアリング調査を中心とした予備的調査を実施した。(都市計画策定事業で実施) 	
	反省点・問題点	工夫している点

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	個別事情 (社会状況変化等考慮すべき事情)	事業評価
「歩行者と自転車を優先するまち」ワークショップを実施し、自転車誘導マーク等の設置に向けた協議を行うことができたが、歩行者・自転車の共存方法の具体的な方策が示せなかった。	イ 予定より遅れている		(c)順調であるとみなせない

＜審議会・懇話会等の意見＞

警察と連携し、危険な自転車運転の取り締まりを強化してもらいたい。乗合タクシーについては、持続可能な方策を引き続き検討してもらいたい。評価としては妥当であると思われる。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(c) 順調であるとみなせない